

【放射性物質と化学物質の「複合汚染」】

野村大成（大阪大学名誉教授，放射線基礎医学）の1980～1990年代の研究

- ★ 親が放射線に曝露すると、突然変異のみならず、がんや奇形までもが子孫に誘発され、その生殖細胞の変異は次世代に遺伝する(Nature1990)
 - ★ マウスの妊娠中に低線量放射線(X線)をあて、その母から生まれた仔マウスに離乳後、発ガン物質(ウレタン)を低用量与えると、放射線をあてない母親から生まれた子どもに比べ、数倍の頻度でガンが発生
- ⇒ **低線量の放射線と低用量の毒性化学物質に汚染すると、一方だけではガンが発生しなくても、相乗効果でガンが発生しやすくなる**



⇒ 今後は、放射線と各種毒性化学物質汚染との大規模な「**多重複合汚染**」が問題